

TMT科学諮問委員会での TMT科学運用についての議論

秋山正幸(TMT科学諮問委員会)

TMT科学諮問委員会では前期から継続してTMT科学運用、すばるとの一体運用について議論。

今期はUS-ELTPの枠組みの科学運用体制の議論がおこるのに合わせ、ワーキンググループを立ち上げて検討。

青木和光(座長)、小山佑世、古澤久徳、富永望、成田憲保、田村陽一、藤井通子

次ページ以降は、前期からの申し送りに上げられた検討の観点をまとめたもの。

プログラムの公募/審査

- 科学成果の創出の観点からは single / multi TAC のどちらが良いのか？
 - パートナー間で重複する課題の取り扱いは考慮しないので良いのか？
- すばるの観測申請との共通化、TACの共通化は？
- ラージプログラムをどのような割合で実施するのか。
 - 実施するにあたってマルチパートナー課題をどのように進めるのか？
- 採択されたプログラムと研究推進の研究費とパッケージにする枠組みは？
- 他の望遠鏡や衛星と連携して課題を審査、実施する枠組みはどうか？
- 審査にあたってのカテゴリの設定は？

観測モードと観測支援体制

- 「成果」を最大化する観測モードは何か？
 - すばる望遠鏡の運用での実証と評価を続けることが必要
- パートナー間で競合するToOをどのように実施するか？
- 観測提案や観測準備の支援体制はどうするか？

データ処理環境、配布、アーカイブ

- 生データだけでなく、一次処理済みデータや1次元スペクトルの形でのデータ配布などサイエンスを実行する上で効率的なデータ配布は何か？
- データアーカイブの体制について、すばるのアーカイブとの連携など。
- 他波長を中心とした研究者や理論研究者など新しい研究者の参加を容易にする体制は？
- 国際運用に入ったすばる望遠鏡とTMTの一体運用とは？